

薬理学Ⅲ

責任者・コーディネーター	分子細胞薬理学講座 中山 貢一 教授		
担当講座・学科(分野)	分子細胞薬理学講座		
対象学年	3	区分・時間数	講義 22.5 時間
期 間	前期		
単 位 数	2 単位		

・学習方針（講義概要等）

近年、長年の生活習慣などの環境的要因と遺伝的要因が複雑に絡み合って発症する病態と、それらに対する薬物治療が注目されている。本講義では、これまで学習した、薬理学および関連分野科目を踏まえて、高血圧、糖尿病、肥満、高脂血症や動脈硬化に伴う循環系疾患などの、いわゆる生活習慣病や代謝症候群（メタボリックシンドローム）に対して使用される薬物を主題に、薬理作用や有害反応について学ぶ。さらに、呼吸器系、消化器系、腎に作用する薬物、炎症・アレルギー等と薬について、薬理作用、臨床応用、副作用についての基礎事項を学ぶ。

・一般目標（GIO）

1. 神経系、循環器系、呼吸器系に作用する薬物に関する基本的知識を修得し、その薬理作用、薬理機序および主な副作用について説明できる。
2. 内分泌系、消化器系、腎、血液・造血器系、代謝系、炎症、アレルギーに作用する薬物に関する基本的知識を修得し、その薬理作用、薬理機序および主な副作用について説明できる。
3. 個々の患者に応じた投与計画を立案できるようになるために、薬物治療の個別化に関する基本的知識に薬理学がどのように資するかについて基本的知識を修得し、それらについて説明できる。

・到達目標（SBO）

1. 代表的な高血圧治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。
2. 代表的な気管支喘息治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。
3. 代表的な糖尿病治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。
4. 代表的な脂質異常症治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。
5. 代表的な炎症治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。
6. 新たな情報因子と薬理学について説明できる。（☆）

・講義日程

(矢) 東 103 1-C 講義室

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
4/12	木	1	分子細胞薬理学講座	中山 貢一 教授	薬理学Ⅲの講義のはじめに
4/19	木	1	分子細胞薬理学講座	中山 貢一 教授	腎に作用する薬物 その1
4/26	木	1	分子細胞薬理学講座	中山 貢一 教授	腎に作用する薬物 その2
5/10	木	1	分子細胞薬理学講座	中山 貢一 教授	呼吸器系に作用する薬物
5/17	木	1	分子細胞薬理学講座	中山 貢一 教授	炎症・アレルギーと薬物 その1
5/24	木	1	分子細胞薬理学講座	中山 貢一 教授	炎症・アレルギーと薬物 その2

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
5/31	木	1	分子細胞薬理学講座	中山 貢一 教授	血液・造血系に作用する薬物 その1
6/7	木	1	分子細胞薬理学講座	中山 貢一 教授	血液・造血系に作用する薬物 その2
6/14	木	1	分子細胞薬理学講座	中山 貢一 教授	代謝系に作用する薬物 その1
6/21	木	1	分子細胞薬理学講座	中山 貢一 教授	代謝系に作用する薬物 その2
6/28	木	1	分子細胞薬理学講座	中山 貢一 教授	代謝系に作用する薬物 その3
7/5	木	1	分子細胞薬理学講座	中山 貢一 教授	感覚器に作用する薬物
7/10	火	1	分子細胞薬理学講座	中山 貢一 教授	消化器・平滑筋に作用する薬物
7/12	木	1	分子細胞薬理学講座	中山 貢一 教授	免疫系に作用する薬物
8/23	木	1	分子細胞薬理学講座	中山 貢一 教授	薬理学Ⅲ総合演習とまとめ

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	New 薬理学 改訂第6版	田中 千賀子、加藤 隆一 編	南江堂 (定価 8,800 円)	2011
教	薬学生・薬剤師のための知っておきたい医薬品選 600 増補版	日本薬学会 編	じほう (定価 3,200 円)	2009
教	薬理学マニュアル 改訂4版2刷	高柳 一成 他	南江堂 (定価 4,800 円)	2008
教	人体機能生理学 改訂第5版	杉 晴夫 他	南江堂 (定価 10,000 円)	2009

・成績評価方法

定期試験、演習、レポート及び出席点等を総合的に評価する。